

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第177号

[2022年5月31日発]

発達障害医療研究所からのご挨拶

発達障害医療研究所所長 太田 晴久

昭和大学発達障害医療研究所の太田晴久と申します。加藤進昌先生から引き継ぎ、所長を拝命いたしました。どうぞ、よろしくお願い致します。

発達障害医療研究所では、主に大人の発達障害に対する診療と研究に取り組んでいます。我々が開発し、これまで多くの当事者に実施してきた大人の自閉スペクトラム症（ASD）専門デイケアプログラムは、治療的関与の重要な選択肢として考えられています。本邦における診療報酬にも反映されるようになりました。また、養育者や配偶者など御家族の支援も必要とされています。烏山病院では、発達障害の家族会として「烏山東風の会」が、平成25年10月より発足しています。

研究所では、臨床的側面では新たなデイケアプログラムの開発、生物学的側面では脳MRI画像研究を中心として、発達障害の原因究明、治療法の開発に取り組んできました。これらは、日本医療研究開発機構（AMED）、厚生労働科学研究費などの競争的研究資金を得て実施しています。

新たなデイケアプログラムの1つとして、大学生専門プログラムが挙げられます。大学生では自身の特性についての認識が十分でないなど、社会経験を持つ大人と異なるアプローチが必要でした。他にも、同様な困難を抱える当事者同志の支え合いの力を生かした、ピアサポートプログラムを開発しました。このプログラムは、長期の支援を前提とするASDに対し、医療の枠組みだけでなく、自助的な活動に繋げていくことを念頭においています。令和3年度からは、研究所の精神保健福祉士である五十嵐美紀が研究代表者として、ASDの自立促進プログラムの開発に取り組んでいます。これは、社会参加出来ているASD当事者が、「親亡き後」というライフステージの変化による生活破綻を未然に防ぐことを目的としています。

近年の脳MRI画像研究では、何かをしている時の脳の活動のみならず、なにもしていない時（安静時）の脳の活動が重要視されています。研究所では他機関と共同にて、安静時の脳活動に対し、人工知能（AI）を用いて解析することで、精度85%でASDを判別できることを報告しています。そのほかにも、発達障害の原因究明や治療法開発につながる研究成果を様々あげています。また、研究所は共同研究拠点として文部科学省より認可されており、他施設に所属している異分野の研究者も参画しています。

これらの研究は当事者およびご家族のご協力がなくては成立しません。これまで研究にご参加いただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、今後ともお力添えのほど何卒よろしくお願い致します。

着任のご挨拶

I. 臨床薬理研究所

講師 山本 明和

本年度4月より臨床薬理研究所の一員となりました山本明和と申します。2022年3月まで、昭和大学横浜市北部病院、循環器内科に勤務しておりました。これまで主に、循環器内科の臨床と、血管内画像の臨床研究をやって参りました。これから、臨床薬理研究所の先生方、スタッフの方々から、臨床研究の礎、実践を学ばせて頂きながら、少しでもこれからの医療に貢献できるよう臨床研究に邁進できればと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

II. 臨床薬理研究所

助教 當重 明子

4月より昭和大学臨床薬理研究所に入職いたしました當重明子と申します。昭和大学を卒業後、旗の台での初期研修を経て、昭和大学眼科学講座に入局、附属病院・関連病院に勤務し、このたび臨床薬理研究所にお世話になることになりました。まだまだ慣れず、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、日々精進してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

III. 臨床検査室

臨床検査技師 上野 かおる

2022年4月1日付で昭和大学リハビリテーション病院から異動して当院臨床検査室の責任者となりました、上野かおると申します。私は昭和大学藤が丘病院に入職し、その後横浜市北部病院の立ち上げに携わり、2015年に藤が丘病院に異動、昨年度は藤が丘リハビリテーション病院に在籍していました。各病院で主に生理機能検査を担当していました。本年度の異動は責任者となるということで責任の重さに身の引き締まる思いです。病院が変わることで業務の運用が異なるとともに烏山病院では臨床薬理研究所の業務も加わり、覚える事ばかりで緊張の毎日です。しかし新しい環境は自分自身を成長させる良い機会になると思っております。

私は、旅行や好きなミュージシャンのライブに行くことが楽しみでしたが、約2年以上コロナ禍のために行けなくなり、皆様も同様のことと思いますが、大きく生活が変わってしまいました。まだまだ気を緩められない状況ですが、皆様とともにこの困難を乗り越え、以前のような生活を取り戻せることを祈っています。

新たな環境下で不慣れなこともあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

IV. 栄養科

管理栄養士 長谷部 茂美

管理栄養士の長谷部茂美と申します。2010年、烏山病院に1年間勤務して以来、12年ぶりの烏山病院勤務です。赴任して感じたことは、毎週火曜日に実施される嚥下回診に参加したことで、食事形態の判定に対し、歯の欠損及び虫歯の放置、早食い、詰め込み食べにより、良く咀嚼できず、丸のみによる窒息の危険を予防するため、各患者様に適した安全な食事提供を考えております。活動の制限、便秘、うつ症状が要因となり、食欲不振による認知症患者様の食事摂取確保の難しさ、外来及び入院患者様のストレスによる過食また、運動不足による体重管理、生活習慣病予防の個別栄養指導の重要性を感じています。

食事に関してお困りの患者様がいましたら、お気軽に栄養科に相談してください。

V. 精神保健福祉室

精神保健福祉士 塚田 成実

はじめまして。4月より精神保健福祉士として入職しました塚田成実と申します。現在は各病棟で研修をしております。7月からは担当病棟を持たせていただく予定です。

私は大学で臨床心理学を専攻し、進路に迷っていたところゼミの先生から現在の職業を紹介して頂きました。元々病院での勤務が夢だったこと、そして専門学校で勉強する中で急性期病棟にとっても興味があったので今回烏山病院で勤務できること大変嬉しく思います！

至らない点も多くあり、ご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、精一杯頑張りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しく願いいたします。

VI. 作業療法室

作業療法士 千葉 美並

はじめまして。今年度入職いたしました、作業療法士の千葉美並と申します。現在はデイケアセンターで研修をしており、その後は、C3病棟、A4病棟の研修でお世話になります。また、秋ごろから担当の病棟を受け持つ予定となっております。患者様の悩みに寄り添い、目標や希望をサポートできるような作業療法士になっていきたいと思っております。

現在は、まだまだ分からないことばかりで緊張の日々を過ごしておりますが、できることを1つずつ増やせるように頑張っています。未熟者ではありますが、独り立ちできるよう、日々精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

デイケア活動 就労準備 R.S さん

今回は、就労準備プログラムを紹介したいと思います。このプログラムは、就労に向けてどんな準備が必要かを学ぶプログラムです。私はこのプログラムを受けて、簿記や英語などの知識よりも、生活リズムの確立・協調性・感情のコントロールのほうがはるかに大切であること、上座や下座の概念や、訪問先では荷物は床に置くことや、ビジネスシーンでは腕時計で時間を確認することなどのマナーを学びました。就労移行支援事業所や企業の見学をした際に、「使いまわしが可能な志望動機では採用されにくい」などのことを企業の採用担当者の話を伺うこともできました。

これまでは、志望動機は使い回しで良いと思っていましたが、自分が働いてみたい企業をしっかりと調べた上で、自分ならではの志望動機を書こうと思います。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《4月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 7,950(8,062) 5,781(6,403)

◇一日平均患者数 265.0(260.1) 231.2(246.3)

◆診療実日数 30(31) 25(26)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。



【編集後記】

ゴールデンウィークは皆様どこか足を運ばれましたか？

私は3年振りに友人が所有する裏山に子供とタケノコ掘りに出かけました。3年前は子供にくわを持たせても「重い」と言い、タケノコ掘りを放棄していました。しかし、今年は友人の指導のもと弱音を吐かずむしろタケノコ掘りを楽しんでいる姿に成長を感じました。

竹の種子が地上から芽を出すには長い年月が必要になると言われています。最初の4年間、目に見える成長はない。しかし、5年目でようやく地上から芽を出すと、わずか6週間で30メートルくらいまで伸びる。人間の成長も竹の成長に似ています。短期間で急成長を遂げるように見えることがあっても、じつはそうではない。その人のそれまでの地道な努力が急成長を可能にしています。コロナ禍で生活様式も変わり大変ですが変化を受け入れ、それぞれの目標に向かい継続させることが成長させ、きっと明るい未来が訪れることを信じてみましょう。

(広報委員 大迫)